

発見！発掘！

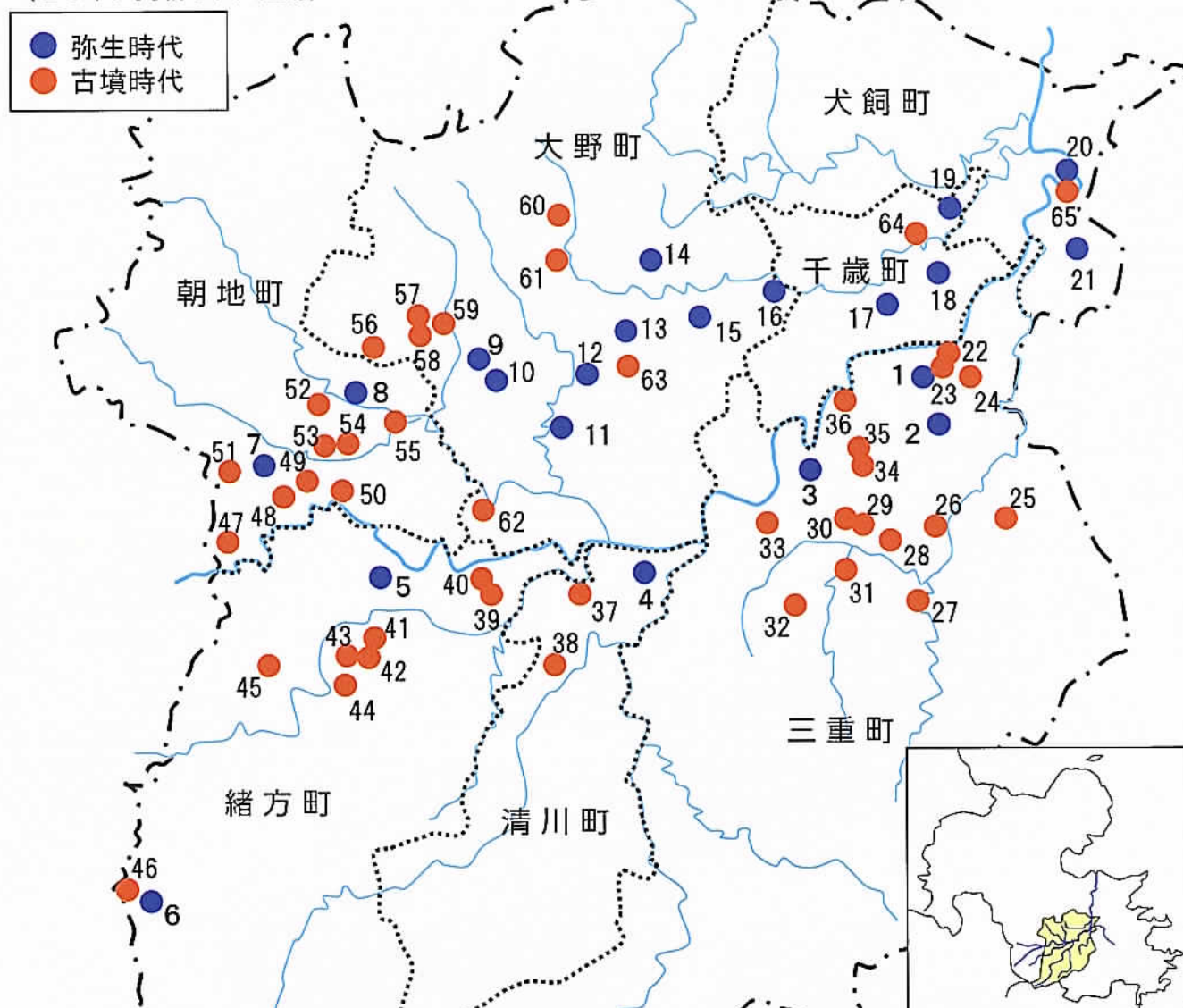
郷土の歴史

弥生時代・古墳時代編



豊後大野市教育委員会

3万年前	1万2千年前	前4世紀頃	3世紀中頃	8世紀	13世紀	17世紀	21世紀
原		始			古 代	中 世	近 世
旧石器時代 (先土器時代)		縄文時代			飛鳥時代	鎌倉時代	安土桃山時代
		弥生時代			奈良時代	室町時代	江戸時代
		古墳時代			平安時代		近代・現代
草創期	早期	前期	中期	後期	前期	中期	後期



① 弥生時代

紀元前3世紀から紀元後3世紀中ごろにかけての約600年間は弥生時代と呼ばれています。前期・中期・後期の三時期に区分されていますが、最近では前期の前に早期という区分を設けて始まりとする研究者もいます。

縄文時代の終わり頃に稲作が大陸より伝えられ、新しい磨製石器や金属製の道具なども使われるようになり、それらによって生産性の高い農耕が行われるようになりました。それにより農耕文化の定着と社会発展により生

活が安定して定住化が進み、やがて大規模な集落も形成されていくことになります。そこには権威の象徴とみられる青銅器なども出現することから、集団を統率する者が出現したことでしょう。

それらはさらに有力な地域集団として発達し、やがて統合が進んで大きな富と権力を持つようになり、中国の歴史書に登場する邪馬台国のようなクニもそのうちのひとつと考えられます。



● 弥生時代の遺跡

豊後大野市内には特に大野町・千歳町などで発達する火山性台地を中心に多くの遺跡が所在し、大分県内でも有数の遺跡集中地域として知られています。特に後期には爆発的に増加し、文化的地域性のある集団がいくつも形成されていたと考えられています。これらの大規模化した集落跡は古墳時代の初頭まで続いており、畑作を主な生業とした生活の跡と考えられています。



検出された遺構群（松木遺跡）

たてあなじゅうきょあと 竪穴住居跡

前期から中期の住居については円形のほか不定形のものが多く、一部に花卉形と呼ばれる中央を一段深く周囲に間仕切りを設けるような構造の建物跡もあります。やがて後期の後半になるとほぼすべて方形になり、面積によって様々な柱穴の配置がみられます。住居跡内部には炉の痕跡である焼土や炭化物があるものや、一部には火災で焼失したものや多量の土器を投棄したものもみつ



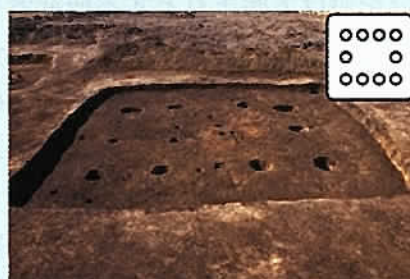
中期の円形住居跡（惣田遺跡）



中期の花卉形住居跡（鹿道原遺跡）



後期の楕円形住居跡（千人塚遺跡）



後期の住居跡（鹿道原遺跡・中道遺跡・舞田原遺跡）
住居の大きさによって柱穴の配置や数が異なります。



焼土（中道遺跡） 火熱で床面が赤色化し、炉の跡と推定されています。



焼矢住居跡（鹿道原遺跡） 炭化した木材が遺されています。



柱穴内に埋蔵された土器（鹿道原遺跡）

掘立柱建物跡

柱穴が長方形に配置されており、^{たかゆかしき}高床式の倉庫のような建物と想定されています。等間隔に一直線に並んで見つかる事もあります。



掘立柱建物遺構（鹿道原遺跡）



溝遺構（二本木遺跡）

溝

二本木遺跡では集落南北の外側を取り囲むようにして造られており、幅3m深さ2mの規模で集落と同時期に所在したとみられます。他の遺跡では集落の中に作られることもあり、集落を区画したものと考えられています。

墓地の遺構

数多く見つかる住居跡に比べて墓地の遺構はわずかですが、集落の内外に見つかることもあります。穴を掘って直接埋葬する土壙墓、周囲に板を組み合わせて囲んだ木棺墓、大型の甕や壺を利用した甕棺墓や壺棺墓などがみられます。



甕棺墓（平石遺跡）



木棺墓（古市遺跡）

●弥生時代の遺物

土器

弥生土器は窯を使わずに 600 ～ 800 度で焼かれた素焼きのやきもので、用途別に甕や壺などの器種が見つかっています。甕は煮炊きなど火にかけて使用したとされ、煤の付着が見られます。壺は貯蔵などに使われたとされており、他に供献のためとされる高坏や鉢などがあります。



甕〔前期〕（鹿道原遺跡）



壺〔前期〕（平石遺跡）



甕〔中期〕（鹿道原遺跡）



甕〔中期〕（折立遺跡）



壺〔中期〕（舞田原遺跡）



壺〔中期〕（舞田原遺跡）



甕〔後期〕（高松遺跡・高添遺跡・光昌寺遺跡）



複合口縁壺〔後期〕（松木遺跡・高添遺跡・光昌寺遺跡）



単口縁壺〔後期〕（光昌寺遺跡）



丹塗り甕〔後期〕（高添遺跡）



鉢〔後期〕（松木遺跡）



高坏〔後期〕（光昌寺遺跡・鹿道原遺跡）





ふたがた
蓋形土器（高松遺跡）
甕などの蓋と考えられます。



せいえん
製塩土器（舞田原遺跡）
底部のみしか見つかっていませんが、海水を煮つめて作られた塩の容器と考えられます。特に古墳時代初頭に多く見つかっています。

土製品



とすい
土錘（三重町採集）

魚を捕るための
網に付けられる錘
と考えられています。



ど きへん かこうひん
土器片加工品（高添遺跡）

土器片の一部が研磨され、多くが半月形や円形などに整形されています。何らかの用途で再利用されたものですが、その目的や方法は不明です。



ぼうすいしや
紡錘車（高添遺跡）

土器片などに穴が開いており、木の棒を差し込んで糸を紡ぐのに使われた錘と思われる。

石器（石製品）



いしざら たたき すり
石皿・敲石（磨石）
（高添遺跡）

石皿はまな板のように調理の台として使われ、敲石や磨石で食物をたたいたりすりつぶしたりしたと考えられています。



せきぞく
石鏃（高添遺跡）

石を磨いて整形された石器です。狩猟用の弓矢のやじりとして使われたと思われます。



柱状片刃石斧 (中道遺跡)

木材加工などの工具として用いられたと考えられる石器です。



石包丁 (高添遺跡)

農作物の収穫に使われた石器です。市内からは破片の一部が見つっています。



砥石 (高添遺跡)

鉄器や石器の製作や研磨に利用されたものです。



石錘 (高添遺跡)

石に刻み目があり、魚を捕るための網に付けた錘(おもり)と考えられています。



磨製石剣 (千歳町採集)

石製の武器で、刃が折れた柄の部分のみが千歳町で見つっています。



勾玉 (舞田原遺跡)



勾玉・小玉 (高添遺跡)

勾玉・小玉

首飾りなどの装身具の一種で、碧玉・硬玉(ヒスイ)などが材料として使われています。

鉄器・青銅器

鉄鏃 (高添遺跡)

狩猟用の弓矢の矢先として使用された鉄製のやじりで、最も多くみられる鉄器の一つです。





とうす
刀子（高添遺跡）

小刀のような形をしており、現在のナイフのように使用されたと考えられています。



やりがんな
鉞（舞田原遺跡）

木材を削ったりする工具の一種と考えられています。



鉄鎌（上）・手鎌（右）（高添遺跡）

作物を収穫するための道具で、手鎌には柄はなく、手のひらで直接持って摘み取るための農具と考えられています。



鉄斧（高添遺跡）

鉄製の斧で、木材を切り出すのに使われたと考えられています。



（岡遺跡）



（松木遺跡）



（舞田原遺跡）



（二本木遺跡）



（高松遺跡）



（高添遺跡）



（鹿道原遺跡）



（穴井南遺跡）

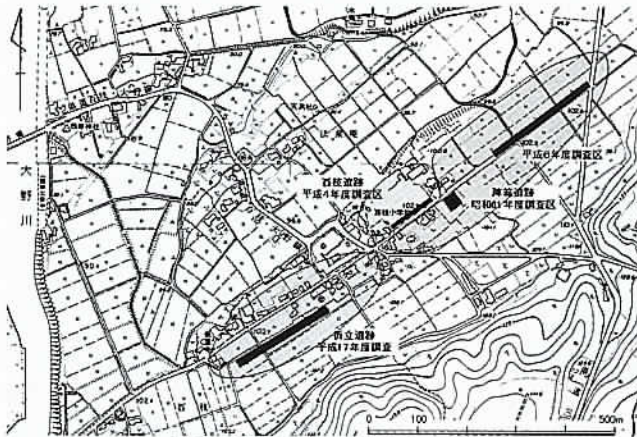
どうぎょう
銅鏡

本来は円形で、表面を研磨して鏡として使うものですが、有力者の権威の象徴として持ち込まれたと考えられています。意図的に割られたり、穴が開けられているものもあります。

●市内の主な遺跡

陣箱遺跡・折立遺跡（三重町百枝・西泉）

大野川の河岸段丘上に位置し、距離的にも近くにあることから同じ遺跡の可能性あります。県道工事に伴い 1986 年から 2005 年にわたり調査が行われ、合せて100基の竪穴住居跡が見つっています。『折立遺跡』2008 大分県教育庁埋蔵文化財センター



陣箱遺跡・折立遺跡位置図



折立遺跡調査写真

浅水遺跡（三重町浅瀬）

菅尾地区の台地上に所在し、古くから弥生時代中・後期の遺物が採集されており、2000 年の調査で3基の竪穴住居跡が見つっています。

『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅴ』2001 三重町教育委員会

惣田遺跡（三重町菅生）

菅尾地区の台地上に所在し、1982 年に調査された縄文時代から中世にかけての遺跡で、弥生時代中期の竪穴住居跡2基や土壌墓と思われる遺構が確認されています。

『惣田遺跡』1983 三重町教育委員会



陣箱遺跡調査写真



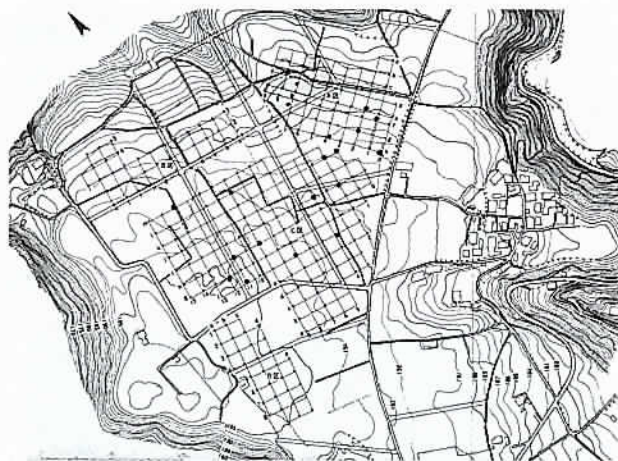
浅水遺跡調査写真



惣田遺跡調査写真

柿ノ木原遺跡（清川町白尾）

1983年の確認調査で、竪穴住居跡とみられる遺構 20 基及び弥生時代中期から後期の遺物が見つっています。『昭和 58 年度大分県内遺跡詳細分布調査概報 3』1984 大分県教育委員会



柿ノ木原遺跡調査位置図

千人塚遺跡（緒方町下自在）

1989年に調査が行われ、中世墳墓の遺跡として知られていますが、弥生時代後期前半頃の 5 基の竪穴住居跡も見つっています。短期間存在した集落跡と考えられます。

『千人塚遺跡』1999 緒方町教育委員会



千人塚遺跡調査写真

西蓮寺遺跡（朝地町朝地）

小賀川と平井川に挟まれた台地上に所在し、農業基盤整備に伴い 2002 年に調査が行われ、古墳時代初頭の竪穴住居跡が 21 基のほか、多数の遺物も見つっています。



西蓮寺遺跡調査写真

高畑遺跡（緒方町大石）

1997年に調査が行われ、弥生時代後期の竪穴住居跡が 4 基見つっています。

『緒方町誌総論編』2001 緒方町



高畑遺跡調査写真

古市遺跡（朝地町市万田）

2010年の調査で弥生時代後期の竪穴住居跡 4 基、木棺墓約 20 基、土坑等が見つっています。市万田川をのぞむ段丘端に所在しており、



古市遺跡調査写真

木棺墓で構成される集団墓は、貴重な集落景観の事例を示す遺跡です。

二本木遺跡（大野町大原）

大野原の台地上に所在し、農業基盤整備等に伴い 1975 年から 1997 年にわたって調査が行われました。弥生時代後期から古墳時代初頭の竪穴住居跡 130 基以上や掘立柱倉庫群などの遺構が密集しており、同じ場所に何度も建て替えが行われたことがわかりました。また、住居群の南北には溝が確認されています。『大野原の遺跡』1980 大野町教育委員会、『二本木遺跡』1998 大分県教育委員会



二本木遺跡調査写真



二本木遺跡調査位置図

松木遺跡（大野町中原）

田代川を望む台地上に所在し、1977 年に農業基盤整備に伴う調査が行われました。弥生時代後期から古墳時代初頭の竪穴住居跡 43 基をはじめ、掘立柱建物や溝などの遺構が確認されています。

『大野原の遺跡』1980 大野町教育委員会



松木遺跡調査写真



松木遺跡遺構配置図

近中遺跡（大野町大原）

1975年に農業基盤整備に伴う調査が行われ、弥生時代中期の竪穴住居跡2基が見つかります。

『大野原の遺跡』1980 大野町教育委員会



近中遺跡調査写真

穴井遺跡（大野町杉園）

道路建設に伴う2003年の調査で、弥生時代終末から古墳時代前葉の竪穴住居跡9基が確認されています。また、近くの穴井南遺跡からも1基が見つかります。

『一般国道57号中九州横断道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』2007 大分県教育庁埋蔵文化財センター



穴井遺跡調査写真



穴井遺跡遺構配置図

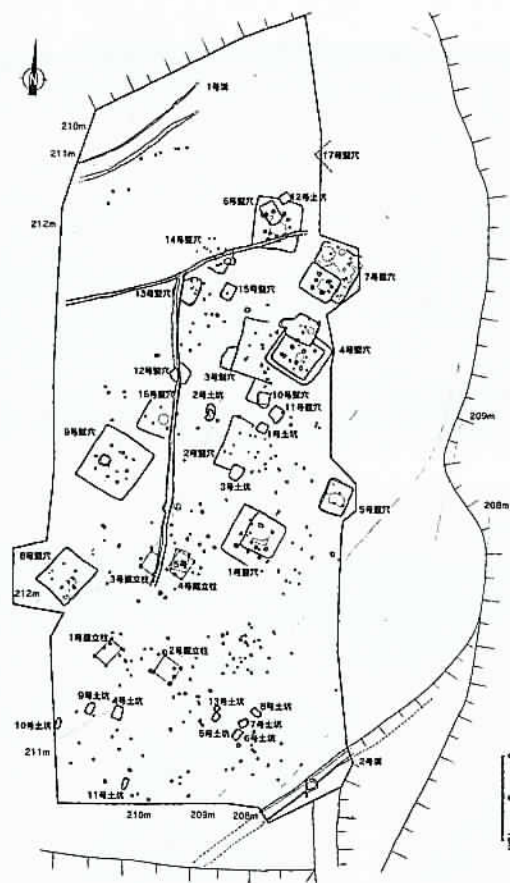
中原舟久手遺跡（大野町中原）

田代川を望む台地上に所在し、道路建設に伴い1997年に調査が行われ、弥生時代中期から古墳時代前期にかけて22基の竪穴住居跡のほか、掘立柱建物跡や土壌墓と思われる遺構などが見つかります。

『中原舟久手遺跡』2000 大分県教育委員会



中原舟久手遺跡調査写真

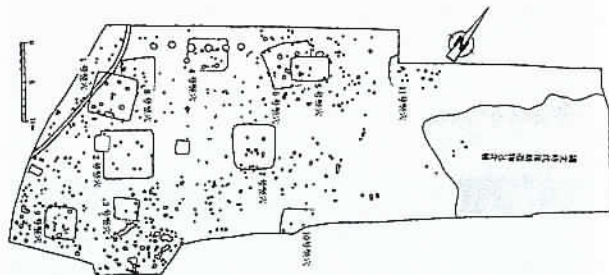


中原舟久手遺跡遺構配置図

光昌寺遺跡（大野町十時）

十時川を望む台地上に所在し、農業基盤整備に伴い 1990 年に調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代初頭の竪穴住居跡 11 基が確認されています。

『大野地区遺跡群発掘調査概報Ⅰ』 1991 大野町教育委員会



光昌寺遺跡遺構配置図



光昌寺遺跡調査写真

中道遺跡（大野町後田）

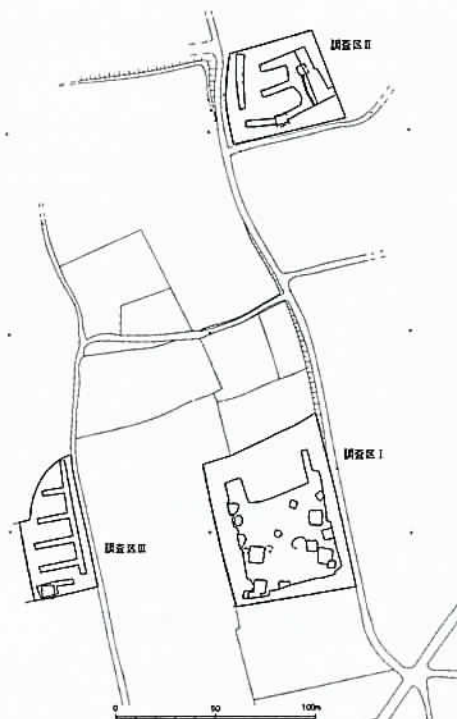
大野東部の台地上に所在し、農業基盤整備に伴い 2008 年に調査が行われ、弥生時代中期及び後期の竪穴住居跡 12 基が見つっています。

『豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書Ⅰ』

2010 豊後大野市教育委員会



中道遺跡調査写真



中道遺跡調査配置図

岡遺跡（大野町後田）

大野東部の台地上に所在し、道路建設に伴い 2004 年に調査が行われた下ノ原地区で、弥生時代中期の竪穴住居跡 3 基が見つっています。『一般国道 57 号中九州横断道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』 2007 大分県教育庁埋蔵文化財センター



岡遺跡調査写真



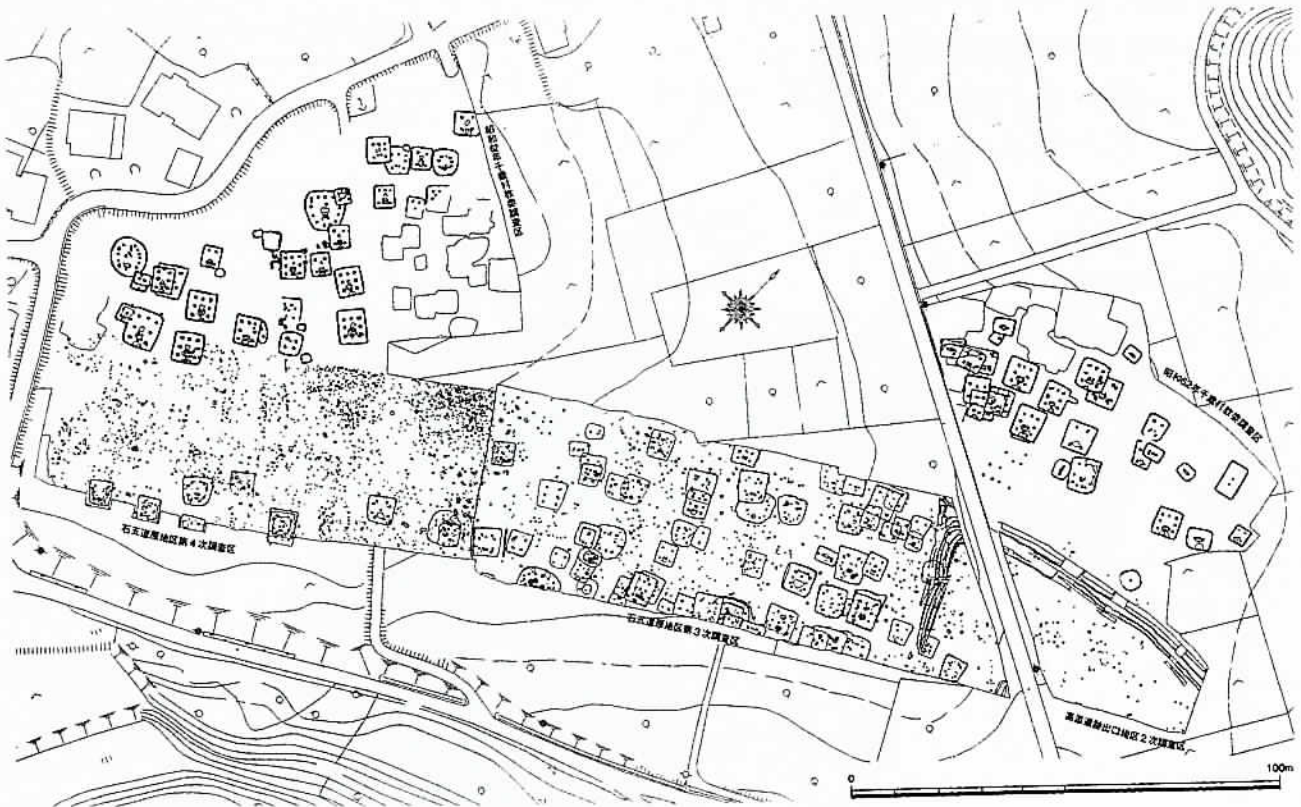
岡遺跡調査位置図

高添遺跡群（千歳町長峰）

高添地区の台地上に所在し、1986～87年の農業基盤整備、及び2002～06年の中九州道路建設に伴う調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡161基をはじめとする大集落跡が見つかっています。近隣の平石遺跡からは弥生時代前期の壺棺や甕棺群16基による墓地の遺跡も確認されています。『高添遺跡』2006 豊後大野市教育委員会



高添遺跡調査写真



高添遺跡（石五道原・出口地区）調査位置図

鹿道原遺跡（千歳町柴山）

柴山地区の広大な台地上に所在し、工場建設に伴って発見され、1989～90年にわたって4.5haもの



鹿道原遺跡調査写真

大規模な調査が行われました。弥生時代中期から古墳時代前期にかけての県下でも最大規模の集落遺跡として知られています。竪穴住居跡は 237 基も確認されており、調査によって柱を抜いて建て替えた住居や火災で焼失した住居があることもわかりました。掘立柱建物も 221 基確認されており、そのうち数棟～十数棟が並列及び直列に並ぶ並倉ならびくらといわれる建物群として見つっています。弥生時代集落の全容を考えるうえで重要な遺跡で、土器・石器・鉄器などの遺物も大量に見つっています。

『鹿道原遺跡』2001 千歳村教育委員会



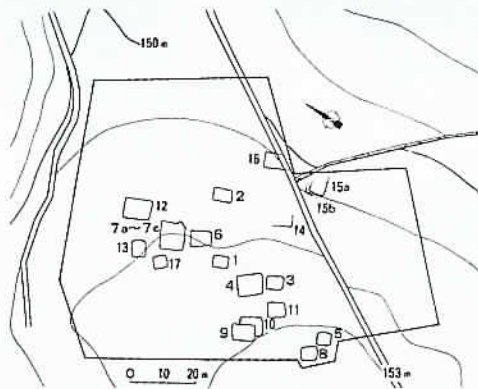
鹿道原遺跡調査写真



鹿道原遺跡遺構配置図

上原遺跡（千歳町高畑）

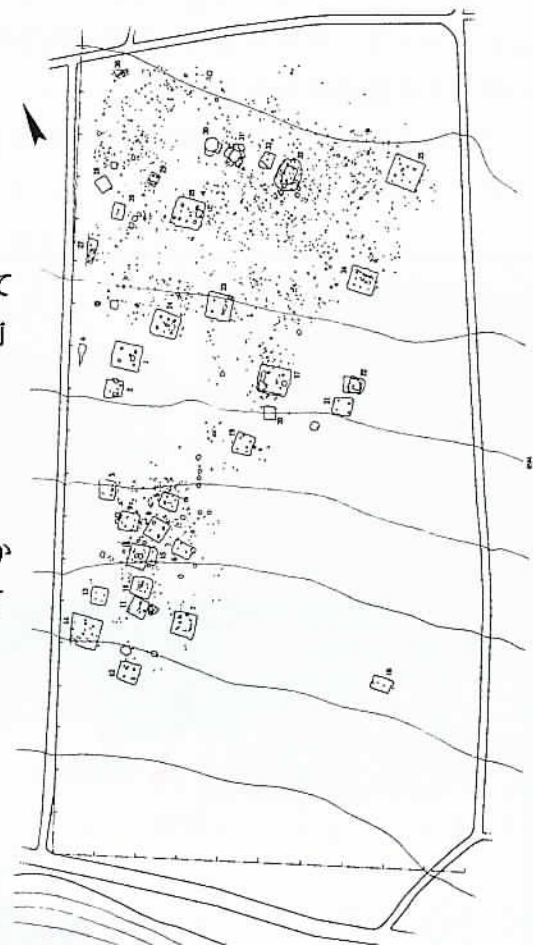
運動公園建設に伴う調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて20基の竪穴住居跡などが見つかっています。『上原遺跡』1989 千歳村教育委員会



上原遺跡遺構配置図



上原遺跡調査写真



舞田原遺跡遺構配置図

舞田原遺跡（犬飼町田原）

大野川の蛇行に囲まれた台地上に所在し、工場建設に伴って1982年に調査が行われました。弥生時代中期から古墳時代前期にかけて36基の竪穴住居跡などが見つかっています。

『舞田原』1985 犬飼町教育委員会

高松遺跡（犬飼町大寒）

農業基盤整備に伴い1986年に調査が行われ、弥生時代中期から古墳時代前期にかけて74基の竪穴住居跡などが見つかっています。

『高松遺跡』1988 犬飼町教育委員会



高松遺跡遺構配置図



高松遺跡調査写真

②古墳時代

弥生時代に発達した各地の地域集団同士が統合し、やがて畿内政権による全国統一が進んで前方後円墳が出現すると、全国で古墳が造られるようになります。古墳とは大きく土を盛りあげて造られた有力者の墓で、3世紀後半から6世紀にかけて盛んに造られました。この古墳時代は前期・中期・後期に区分されているほか、飛鳥時代の7世紀以後も終末期として古墳は造られています。



古墳築造の想像図

古墳以外にも盛土を伴わない石棺墓や木棺墓、崖に掘り込まれる横穴墓などもこの時代の墓として知られています。

●古墳の分布

大分県内には多くの古墳が分布しており、特に政治的・社会的地位に基づいて築造されたとみられる前方後円墳などの主要古墳は、大きな河川の流域や海岸沿いなどに集中する傾向があります。

豊後大野市を含む大野川流域もその一つで、この地域にも有力な支配者が存在していたことがうかがえます。前期から中期にかけての前方後円墳が三重川周辺に、円墳が平井川周辺に多く確認さ



れ、大野川の支流単位で所在していることが推定されます。やがて後期には古墳の築造は少なくなる横穴墓が緒方川や茜川など各河川一方、周辺にも分布が広がっていきます。

集落遺跡についても主に河川沿いの平野で見つかっていることから、台地から平地へと生活拠点を移していることがわかります。このことから水系や地形単位で区分された地域的なまとまりが想定され、後に律令時代に成立する郡や郷という地域単位ぐんごうの原形になったものと考えられます。

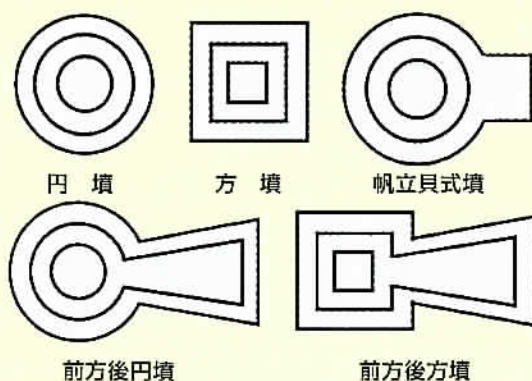
●古墳時代の遺跡

古墳の形態と構造

有力者の墓として築造された古墳には様々な形があり、市内には円墳と前方後円墳が主に確認されています。特に上から見るとかぎ穴のような前方後円墳は大型の古墳に多く、有力な豪族の墓と考えられています。



古墳の築造復元（大分市亀塚古墳）



また、現在は草木に覆われていますが、築造当時は人工構造物としての姿をしていました。段築と呼ばれる平坦面を設けながら土を盛上げ、表面にはたくさんの葺石（ふきいし）を敷いたり、埴輪（はにわ）を立て並べたりするものがあります。古墳の周囲には周溝と呼ばれる堀を廻らせていることがあります。



箱形石棺（左）と舟形石棺（上）
（鉢ノ窪石棺群）



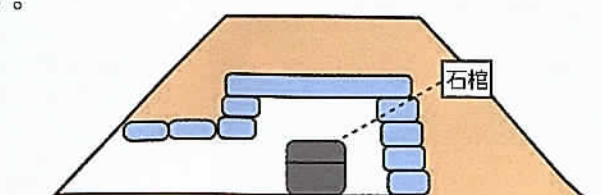
葺石と周溝（小坂大塚古墳）

埋葬するために遺体を取り入れる石製のひつぎを石棺と呼び、市内では数個の板石を組み合わせた箱形石棺や巨石を割り抜いた舟形石棺などがみられます。ほかに木棺と呼ばれる木製のひつぎもあり



石棺の埋葬復元（大分市亀塚古墳）

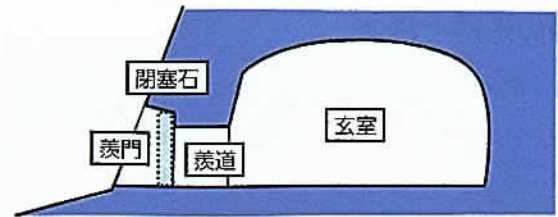
ます。石棺は古墳の頂上にある竪穴に納められており、周囲を粘土で覆っているものは粘土槨、礫で覆っているものは礫槨などと呼ばれます。後期の古墳には横向きに入口を設けて造られる横穴式石室が一般的です。



横穴式石室の概略図

よこあな ぼ
横穴墓

古墳時代後期に発達する墓地遺構で、市内に数多く所在しています。構造は、丘陵や崖などの岩盤に穴を掘り、狭い羨門せんもんの奥に埋葬空間である玄室げんしつをつくり、埋葬後は入口を板石や礫などで閉塞するものです。単独のものもありますが、30基以上群集していることもあります。多くは盗掘を受けて開口しているため、内には何も残されていないことが多くわからない点もありますが、古墳と同じく大野川や支流沿いの平野や小支谷を見下ろす位置に多く造られていることが確認されています。



横穴墓の概略図



カマド跡検出写真 (田村シゲツキ遺跡)

竪穴住居跡

人々の生活は弥生時代と同じく竪穴住居が一般的でした。台地上に発達していた集落は古墳時代前期以降に激滅しますが、河川沿いの平野で見つかり、生活拠点の変化は生産基盤や社会構造の変化によるものと考えられています。

住居跡はほぼ正方形で、前期までは弥生時代と同じく中央付近に炉を設けていますが、中期以後は住居の壁にカマドが備わり食物の調理法も変化していたとみられます。

●古墳時代の遺物

はじき すえき
土師器と須恵器

古墳時代の土器は形も種類も様々に出現します。文様はほとんど付いていませんが、土師器と呼ばれる弥生土器の伝統で作られた素焼きの土器は、日常の容器として多くの遺跡で見つかっています。一方、大陸から新しい技術が伝わって中期以後に作り始められた須恵器は、轆轤ろくろで形をつくり、登窯のぼりがまで1000度以上の高温で焼き上げられているため灰色で硬質という特徴があります。



土師器壺 (舞田原遺跡)



土師器壺 (内田古墳群)



小型壺 (三重町採集)



土師器高杯（内田古墳群）



須恵器大甕（竜ヶ鼻横穴古墳群）



土師器甕（宇対瀬遺跡）



土師器椀（大野町採集）



土師器甕（久知良原遺跡）



須恵器杯・高杯・平瓶（尾崎横穴墓群・竜ヶ鼻横穴墓群）

はにわ 埴輪

古墳に立て並べるために作られた焼き物で、壺の形をしたものや土管のような円筒形などがあります。



壺形埴輪底部（重政古墳）
普通の壺とは違い、底に穴が開いています



円筒埴輪の復元（大分市亀塚古墳）



壺形埴輪（道ノ上古墳）



円筒埴輪（上：竜ヶ鼻古墳 下：道ノ上古墳）



武器・武具

弓矢の矢先とした^{やじり}鏃、小刀として使われた^{とうす}刀子、長柄の刃先である^{ほこ}矛のほか、刀や剣などの強力化した様々な武器が登場し、古墳や横穴墓に副葬品として見つかり、被葬者は武力を背景とした権力者と考えられます。



鉄鏃（竜ヶ鼻横穴墓群）



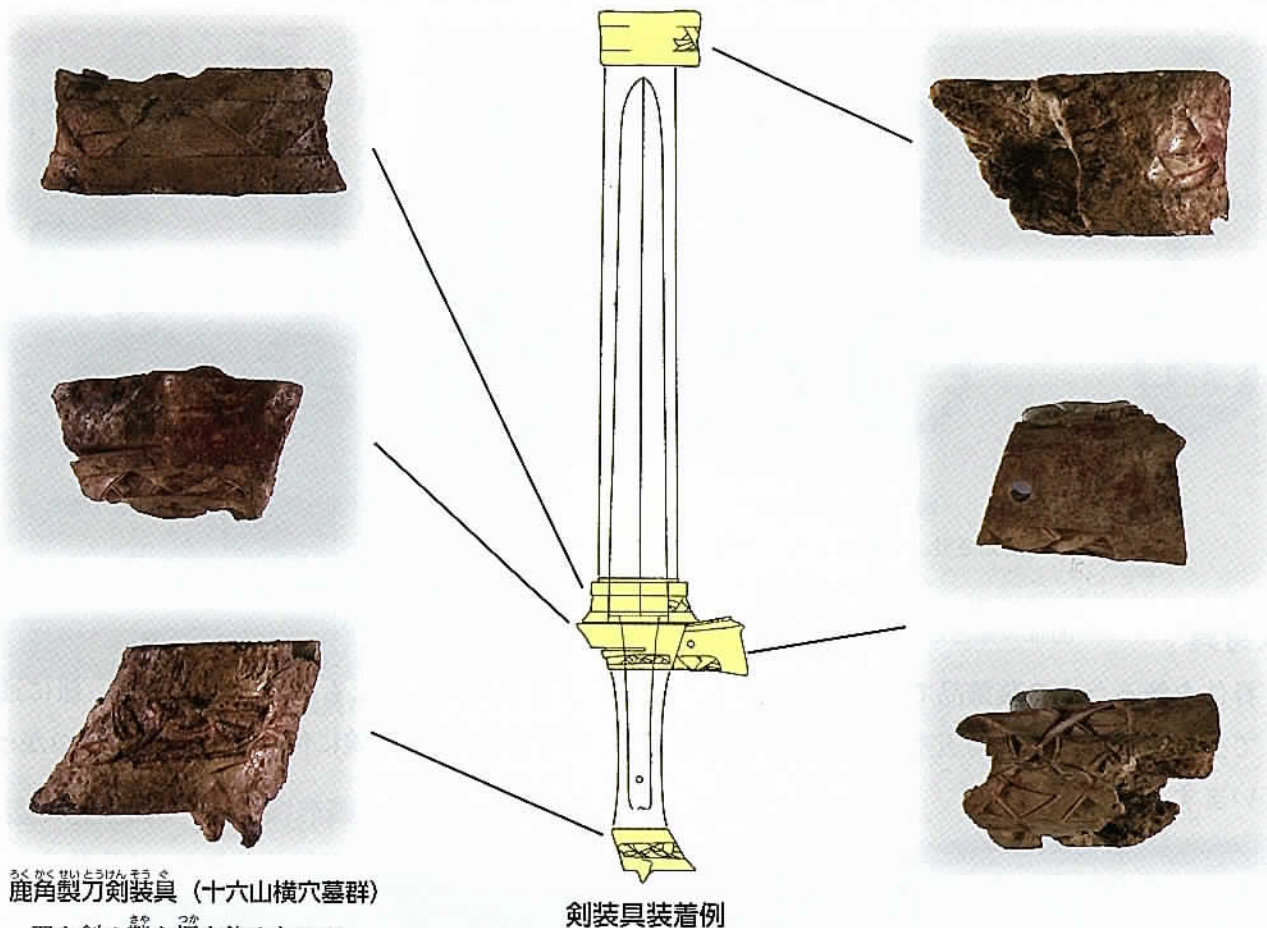
刀子（竜ヶ鼻横穴墓群）



左：鉄鏃 右：鉄矛・鉄剣（十六山横穴墓群）



鉄刀（六箱横穴墓）



鹿角製刀剣装具 (十六山横穴墓群)

刀や剣の鞘や柄を飾るもので、表面に直弧文が刻まれています。

剣装具装着例



鳴鏑
(十六山横穴墓群)

鹿角製で、矢を放ったとき音を発するよう、中は空洞で穴が開けられています。



毛抜型鉄器
(十六山横穴墓群)

毛抜きに似ていることが名称の由来ですが、用途不明の金属器です。刀に取り付けた金具とも推定されています。

馬具

馬を飾ったり乗りこなすために装着させたもので、中期以後より出現します。馬が利用されていたことが推定されます。



貝製雲珠 (竜ヶ鼻横穴墓群)

馬の背中の革帯に付けたもので、貝の中央に金具が取り付けられています。



鞍に付けた鞍金具? (竜ヶ鼻横穴墓群)



くつわ (六箱横穴墓)
馬の口に銜えさせ、手綱とつないで馬を操作する金具



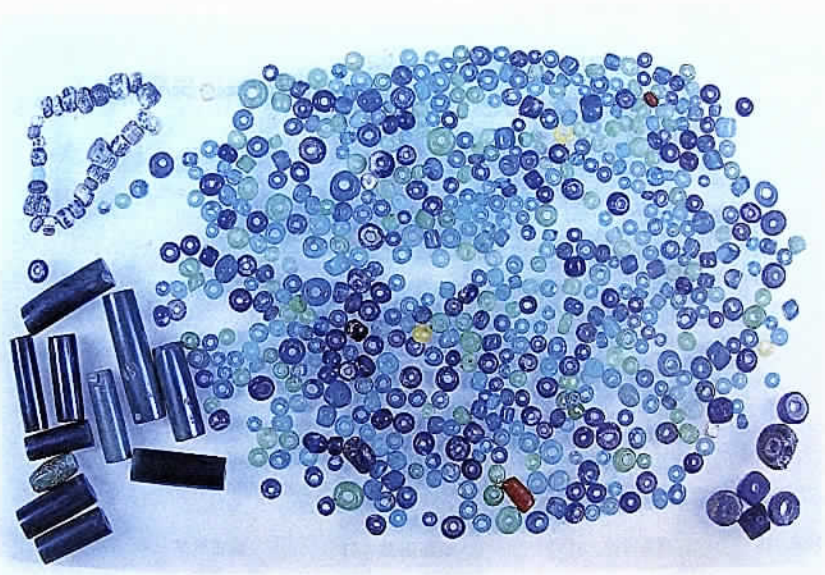
不明鉄製品 (竜ヶ鼻横穴墓群)
雲珠の一部と推定

装身具

身体を飾るための装飾品で、現在のアクセサリのように使用されたものと思われます。紐に通して主に首飾りとした勾玉や管玉などの玉類のほか、耳に付けた耳環、腕に付けた釧などがみつっています。



勾玉 (メノウ製) (竜ヶ鼻横穴墓群)



管玉 (碧玉製) と小玉 (ガラス製) (竜ヶ鼻横穴墓群)



耳環 (竜ヶ鼻横穴墓群)



きりこたま
切子玉 (水晶製) (竜ヶ鼻横穴墓群)



どうぐし
銅釧 (竜ヶ鼻横穴墓群)

●市内の主な古墳

小坂大塚古墳（三重町小坂 県指定史跡）

全長 43m の前方後円墳で、前方部が低く小さい形態です。2010 年の調査で葺石や周溝などが確認されていますが、遺物は今のところ見つかりません。『大分の前方後円墳』1998 大分県教育委員会



小坂大塚古墳調査写真

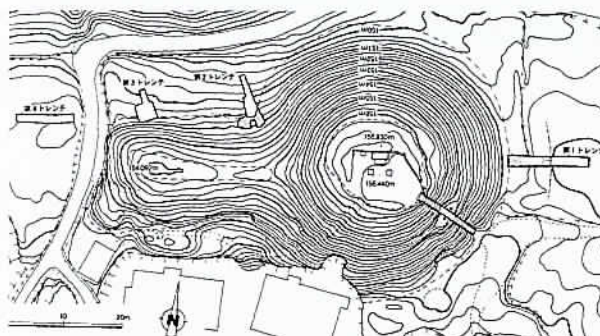


小坂大塚古墳実測図

道ノ上古墳（三重町赤嶺 県指定史跡）

全長 74m の前方後円墳で、大野川流域最大の規模です。2000 年の確認調査で、葺石や周溝のほか円筒埴輪や壺形埴輪が見つかり、4 世紀末～5 世紀初頭の築造と推定されています。

『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅵ』2002 三重町教育委員会



道ノ上古墳実測図



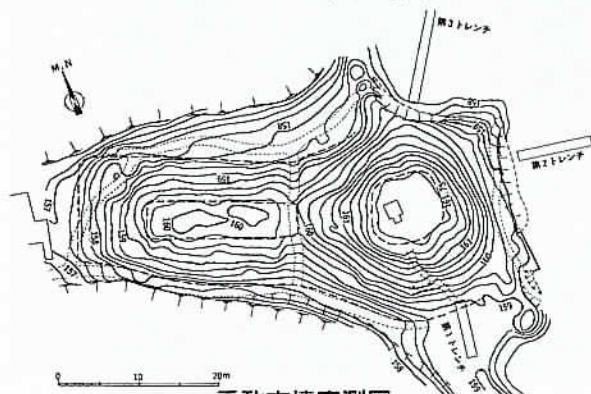
道ノ上古墳写真



道ノ上古墳葺石検出写真

重政古墳（三重町内田 県指定史跡）

全長 52m の前方後円墳で、後円部の一部が削られているため、本来は 54m 程であったと思われます。1994 年の確認調査で葺石や壺形埴輪が見つかり、5 世紀初頭頃の築造と推定されています。『大分の前方後円墳』1998 大分県教育委員会



重政古墳実測図

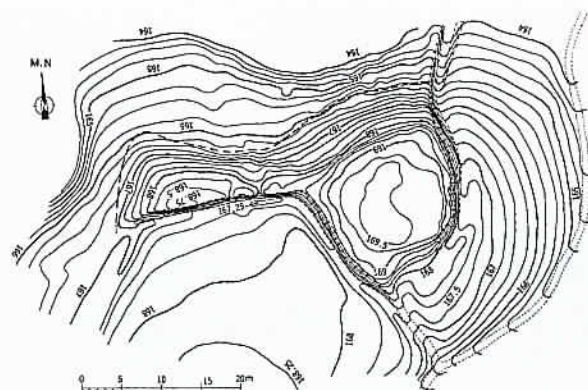
秋葉鬼塚古墳(三重町秋葉 県指定史跡)

全長 45mの前方後円墳で、後円部の一部が削られているため本来は 50m程の規模であったと推定されています。葺石とみられる礫があります。遺物等については知られていません。

『大分の前方後円墳』1998 大分県教育委員会



秋葉鬼塚古墳写真

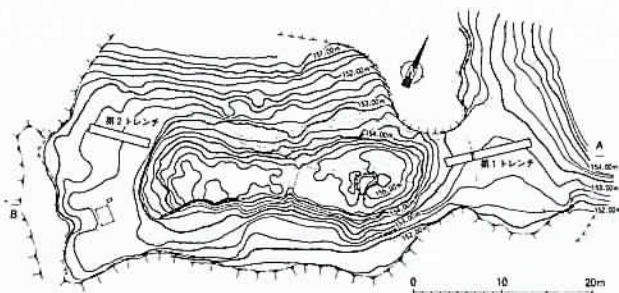


秋葉鬼塚古墳実測図

竜ヶ鼻古墳(三重町赤嶺 県指定史跡)

全長 35mの小型の前方後円墳で、墳形は改変が著しく後円部に盗掘されたと思われる穴がみられます。1998年の確認調査で円筒埴輪が検出されており、5世紀中頃の築造と推定されています。

『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ』2000 三重町教育委員会



竜ヶ鼻古墳実測図



竜ヶ鼻古墳調査写真



立野古墳調査写真

立野古墳(三重町上田原 県指定史跡)

全長 65mの前方後円墳で、北側に周溝の一部がみられます。1995年の確認調査で葺石や壺形埴輪が検出されており、4世紀末頃の築造と推定されています。

『大分の前方後円墳』1998 大分県教育委員会



立野古墳実測図

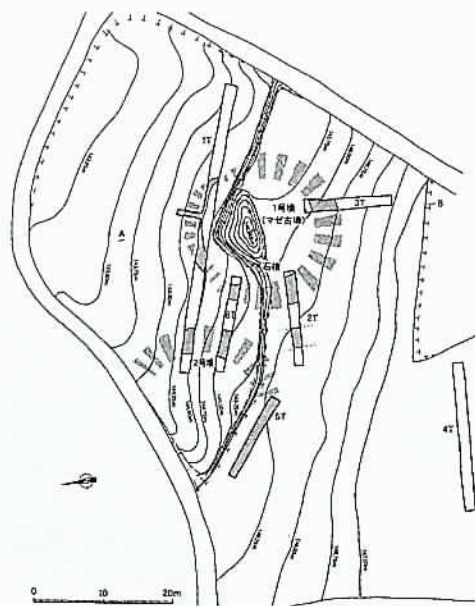
内田古墳群（三重町内田）

2001年度の調査で2基の古墳の痕跡が確認され、径17m程度の葺石を有する小円墳群であったと推定されています。墳丘は1号墳の通称マゼ古墳のみがわずかに残り、石棺らしい石材が置かれています。

『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ』2003 三重町教育委員会



内田古墳群調査写真



内田古墳群実測図

浅水古墳（三重町浅瀬）

径12m程度の円墳で、盗掘と思われる大きな穴が開いています。出土遺物等は知られていませんが、後期の横穴式石室墳と思われる石材がみられます。



浅水古墳写真

鉢ノ窪石棺群

（三重町上田原 市指定有形文化財）

上田原集落内から石棺が出土しており、小円墳群が存在したと推定されています。1基の箱形石棺と3基以上の舟形石棺がみられ、そのうち1基から3体分の人骨と鉄刀が出土したと伝えられます。『三重町誌総集編』1987 三重町



鉢ノ窪1号石棺写真

下津留古墳群（三重町上田原 市指定史跡）

西端の1号墳墳頂に凝灰岩製の箱形石棺が露出しているほか、2箇所で石棺材が確認されています。墳丘が一部残っており、5基程度の小古墳群であったものと推定されています。



下津留1号石棺写真

漬平塚原石棺群（三重町小坂 市指定有形文化財）

1949 年及び 1972 年に調査が行われ、葺石を有する小円墳群であったと推定されています。

4 基の石棺が確認されており、うち舟形石棺 1 基が下小坂区の神社に保管されています。

『三重町誌総集編』1987 三重町



漬平 4 号石棺写真



中の原古墳写真

中の原古墳（清川町三玉 市指定史跡）

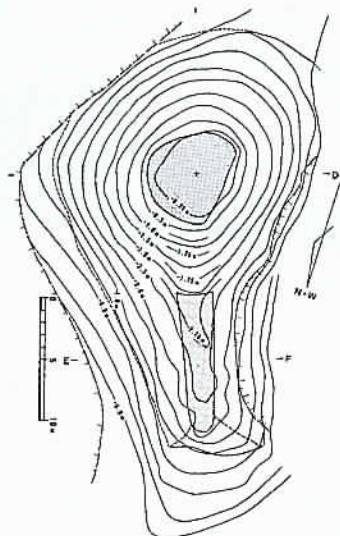
奥嶽川流域の平野を見下ろす丘陵上に所在する径16m程の円墳です。出土遺物などは伝わっておらず、時期等は不明です。

『きよかわの文化財第2集』1997 清川村教育委員会

漆生古墳群（緒方町越生）

大野川流域の平野を見下ろす丘陵の尾根上に並ぶ古墳群で、大久保1号墳は全長34mの前方後円墳です。ほかには円墳とみられ、舟形石棺が露出している大久保2号墳、箱式石棺が露出する城山古墳などがあります。4世紀から5世紀頃の築造と推定されています。

『緒方町誌総論編』2001 緒方町



大久保1号墳実測図



大久保2号墳舟形石棺写真



城山古墳写真

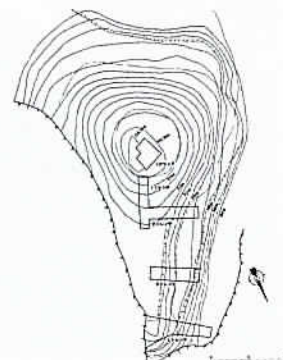
町古墳群（朝地町市万田）

市万田川流域を望む丘陵上に4基程の円墳が分布する古墳群ですが、後世の墓地に改変されています。1994年度の調査で2号墳は5世紀前半頃の時期が推定されています。

『町墳墓群』1996 朝地町教育委員会



町2号墳写真



町2号墳実測図

早尾原古墳（朝地町上尾塚 市指定史跡）

上尾塚地区の丘陵上には多くの古墳が分布していますが、その中でも最大規模の径 30m 以上とみられる円墳です。箱式石棺が 1927 年に掘り出された際、土器などが見つかったと伝えられています。『朝地町史』1968 朝地町史刊行会



早尾原古墳写真

丸山古墳（朝地町上尾塚 市指定史跡）



錢蓋石写真

上尾塚の丘陵上に所在し、径 30m 程の大型円墳で、盗掘らしい穴がみられます。すぐ近くに置かれている通称「^{ぜにふたいし}錢蓋石」はこの古墳から出土した石棺蓋ともいわれています。

『朝地町史』1968 朝地町史刊行会



丸山古墳写真

高伏古墳（朝地町上尾塚）

上尾塚の丘陵上に所在し、周囲を削られて改変されていますが、径 20m 程の円墳と思われます。1936 年頃に出土した箱形石棺が近くに置かれています。『朝地町史』1968 朝地町史刊行会



若宮古墳石棺写真



高伏古墳写真

若宮古墳（朝地町宮生）

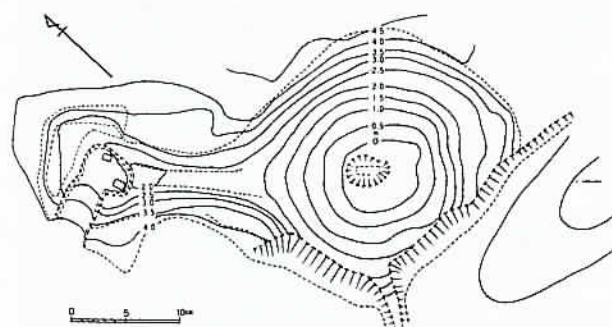
若宮社境内にある径 20m 程の円墳で、墳頂に舟形石棺の一部が置かれていますが、出土した経緯等詳細は不明です。

坊ノ原古墳（大野町桑原 県指定史跡）

向原川流域の平野を見下ろす丘陵上に所在する全長約 45m の前方後円墳で、前方部が低く細長いのが特徴です。墳丘上には葺石らしい礫がみられ、後円部に盗掘跡と思われる窪みがあります。前方部に箱形石棺の一部とみられる石材が置かれています。『大野原の遺跡』1980 大野町教育委員会



坊ノ原古墳写真



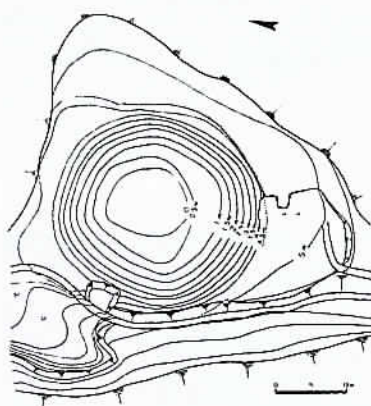
坊ノ原古墳実測図

向原古墳（大野町北園）

向原川流域の平野を見下ろす丘陵上に所在する径18m程の円墳です。出土遺物などは見つかってなく詳細は不明です。



向原古墳写真



御塚古墳実測図

御塚古墳（大野町藤北）

茜川流域の平野を見下ろす丘陵上に所在し、径33mで市内で最大規模の円墳です。出土遺物などは見つかってなく詳細は不明です。『大野原の遺跡』1980 大野町教育委員会

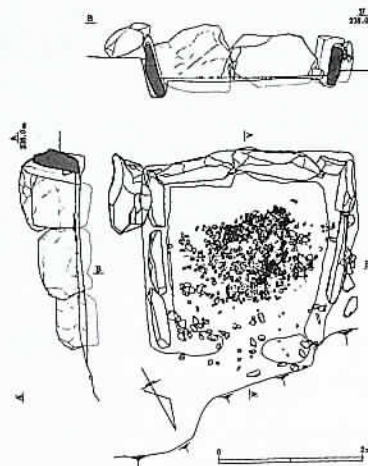
尾崎古墳（大野町片島）

1982年の調査で、市内では珍しい横穴式石室が確認されています。径15m程の円墳で、鉄刀・鉄鏃・馬具などが見つかっており、後期の6世紀後半の時期と推定されています。

『昭和57年度大分県内遺跡詳細分布調査概報2』1983 大分県教育委員会



尾崎古墳調査写真



尾崎古墳石室実測図

●市内の主な横穴墓

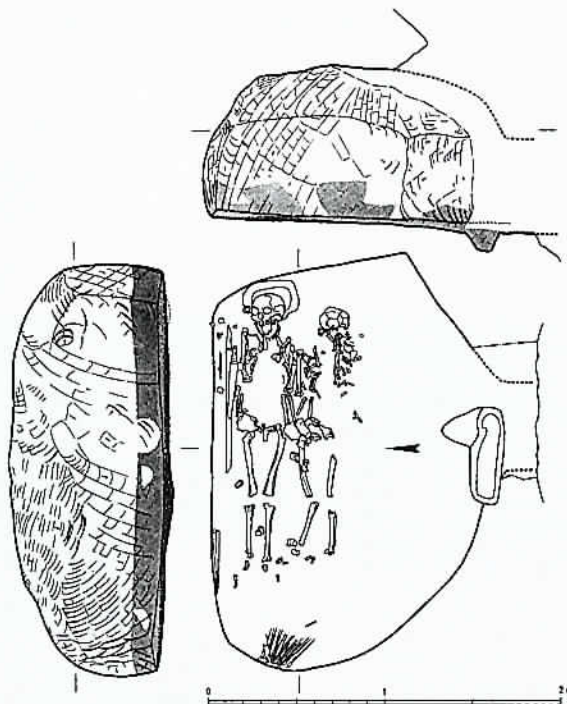
十六山横穴墓群（三重町川辺）

1982年に工事中に1号墓が偶然発見されたもので、大野川に面した川辺地区の平野を見渡す丘陵に位置しています。2体の人骨および鉄製武器や鹿角製刀剣装具などが見つかり、5世紀末の初期横穴墓と推定されています。1992年にもう1基発見され、併せて2基が確認されています。

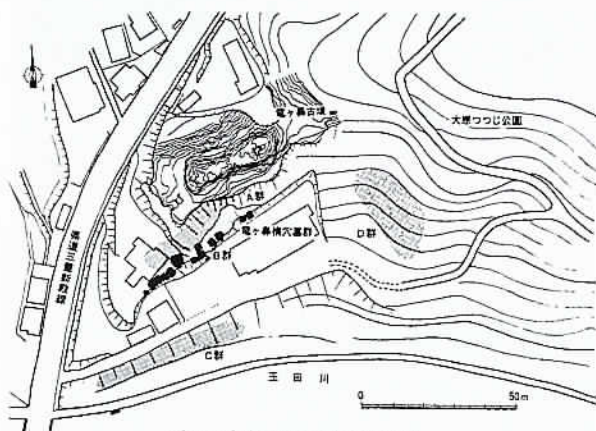
『十六山横穴墓』1983 三重町教育委員会



十六山横穴墓（1号墓）写真



十六山横穴墓（1号墓）実測図



竜ヶ鼻横穴墓群位置図

竜ヶ鼻横穴墓群（三重町赤嶺）

竜ヶ鼻古墳のある丘陵南側に所在し、三重川流域の平野を見下ろす位置です。A～D群に分かれて計20基以上が分布しています。これまで多くの遺物が出土し、6世紀後半から7世紀の横穴墓群と推定されています。

『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ』2000 三重町教育委員会



竜ヶ鼻1号横穴墓写真



竜ヶ鼻2・3号横穴墓写真

岩屋迫横穴墓群（三重町浅瀬）

大野川に面した宇対瀬地区を見下ろす崖に所在する横穴墓群で、8基が所在しています。1994年の調査では遺物は見つかりませんでしたが、6世紀末から7世紀の築造とみられています。

『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅱ』1997 三重町教育委員会



岩屋迫横穴墓群写真

長迫横穴墓群（清川町砂田 市指定史跡）

砂田地区の小谷を見下ろす崖に所在し、5基が所在しています。須恵器の出土が伝えられています。『きよかわの文化財第2集』1997 清川村教育委員会



長迫横穴墓群写真



野仲横穴墓群写真

野仲横穴墓群（緒方町鮎川）

久土知川沿いの小谷を見下ろす崖に4基程が所在しています。開口部のすぐ脇に中世の磨崖石塔が彫られており、中世の信仰の場でもあったと思われる。



大日上横穴墓群写真

大日上横穴墓群（緒方町久土知）

宮迫東石仏の崖上に所在し、5基が確認されています。

宮迫横穴墓群（緒方町久土知）

久土知川沿いの小谷を見下ろす崖に10基程が確認されています。



宮迫横穴墓群写真

六箱横穴墓（緒方町原尻）

江戸時代の1831年に偶然発見された横穴墓と推定されています。現在、遺跡は現存しませんが、当時見つかった馬具や鉄鏝や刀などの遺物は大切に保管されており、記念碑（後藤伊賀守貞宗碑）によってその発見の状況が伝えられています。

『緒方町誌』 2001 緒方町



城山横穴墓群写真

井ノ前横穴墓群（緒方町小宛）

小宛地区の小河川沿いの崖に所在し、4基程が確認されています。



姉井迫横穴墓群写真

狐迫横穴墓群（朝地町下野）

平井川流域の谷底平野を見下ろす崖に所在し、13基が確認されています。

『朝地町史』1968 朝地町史刊行会



六箱横穴墓跡（後藤伊賀守貞宗碑）写真

城山横穴墓群（緒方町越生）

漆生古墳群の城山古墳の南側崖に所在し、5基程が確認されています。



井ノ前横穴墓群写真

姉井迫横穴墓群（朝地町下野）

平井川流域の谷底平野を見下ろす崖に所在し、7基が確認されています。

『朝地町史』1968 朝地町史刊行会



狐迫横穴墓群写真

三反田横穴墓群（朝地町朝地）

小賀川流域の谷底平野を見下ろす崖に所在し、10基が確認されています。『朝地町史』1968 朝地町史刊行会



尾崎横穴墓群写真



三反田横穴墓群写真

尾崎横穴墓群（大野町桑原）

向原川流域の谷底平野を見下ろす崖に所在し、6基が確認されています。『大野町史』1980 大野町

浅草横穴墓群（大野町杉園）

茜川流域の谷底平野を見下ろす崖に所在し、市内最大の31基が群集しています。

『大野町史』1980 大野町



折口横穴墓群写真



浅草横穴墓群写真

折口横穴墓群（大野町夏足）

平井川流域の津留地区の平野を見下ろす崖に所在し、2基が確認されています。

『大野町史』1980 大野町

岩下横穴墓（千歳町大迫）

茜川沿いの崖面に所在していましたが、今は現存していません。工事中偶然発見された際、須恵器や鉄鏃などの遺物が見つかっています。

『千歳村史』1974 千歳村

舞田原横穴墓（犬飼町田原）

大野川に面した崖に1基確認されています。

『犬飼町史』1978 犬飼町



舞田原横穴墓写真

●市内の主な集落遺跡

宇対瀬遺跡（三重町浅瀬）

大野川本流に沿って広がる段丘上に所在し、縄文時代のほか古墳時代後期の土器群がまとまって見つかり、集落跡の遺跡とみられています。

『三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅱ』1997 三重町教育委員会



宇対瀬遺跡調査写真



頭田遺跡調査写真

頭田遺跡（緒方町大石）

緒方川支流の十角川沿いの段丘に所在し、1998年の調査で古墳時代後期頃の竪穴住居跡3基、溝遺構などが見つかりました。

『緒方町誌総論編』2001 緒方町

田村シゲツキ遺跡（朝地町池田）

市万田川沿いの段丘上に所在し、古くから縄文時代の著名な田村遺跡群の範囲内です。1985年の調査では、古墳時代後期頃の竪穴住居跡3基が見つかりました。

『朝地田村遺跡』1986 朝地町教育委員会



田村シゲツキ遺跡調査写真



加原遺跡調査写真

加原遺跡（大野町桑原）

平井川支流の加原川沿いの谷底平野内に所在し、道路建設により2010年に調査が行われ、古墳時代後期の竪穴住居跡が見つかりました。



協力者機関一覧

大分県教育庁埋蔵文化財センター

大分県立歴史博物館

別府大学附属博物館

豊後大野市内埋蔵文化財ハンドブック②

発見！発掘！郷土の歴史（弥生時代・古墳時代編）

編集・発行 豊後大野市教育委員会

大分県豊後大野市千歳町新殿 706-1

印刷 有限会社 民友印刷社